

病害虫発生予察 7 月月報

(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和 8 年 7 月の気象表 (長野地方気象台発表)

官署等		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長野	本年	24.1	27.9	26.7	24.0	4.5	24.5	58.4	64.8	80.0
	平年	23.1	24.0	25.6	52.9	50.4	34.4	46.8	50.8	71.2
松本	本年	23.2	27.3	26.8	42.0	9.0	11.0	53.0	66.3	95.0
	平年	23.2	24.1	25.2	56.6	46.2	28.5	48.5	54.1	72.3
諏訪	本年	22.2	26.4	26.2	38.0	19.0	10.0	57.2	66.4	97.6
	平年	22.1	23.2	24.3	83.7	68.2	42.2	45.8	53.0	70.7
軽井沢	本年	18.2	22.7	22.6	84.5	14.0	483.0	40.0	55.4	70.1
	平年	19.0	20.1	21.0	72.7	63.7	55.5	38.4	44.2	56.5
飯田	本年	22.8	27.4	28.0	121.5	0.0	46.0	42.7	65.8	107.5
	平年	23.3	24.3	25.5	96.1	94.3	49.7	43.0	52.1	71.1

高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、低気圧や前線の影響で雨や雷雨となった日があった。

また、8 地点で日最高気温の高い方からの値について観測史上 1 位を更新した。

なお、気象庁は「関東甲信地方は、7 月20日頃に梅雨明けしたと見られる。」と発表した(速報値)。これは平年より 1 日遅く、前年より22日遅い梅雨明けであった。

1 水 稲

(1) 生育概況

水稻の生育概況につきましては、農業試験場ホームページ内の「生育調査」欄に掲載されている「水稻の生育状況(令和 8 年度)」をご参照ください。

農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①いもち病

AM e D A S データに基づく葉いもち感染好適条件判定(B L A S T A M)では、6 月から 7 月にかけての感染好適条件の出現回数は、県全体で平年と比べ少なかった(第 1 表)。また、7 月下旬の巡回調査における葉いもちの発病株率は、県全体で平年と比べ低かった。

第 1 表 B L A S T A M による葉いもち感染好適条件出現回数

地域		東信	南信	中信	北信	全県
アメダス地点数		5	8	9	5	27
6 月 1 日 ～	平 年	3.3	6.9	5.0	3.2	18.4
	本 年	3	2	0	4	9
6 月30日	平年比(%)	90.9	29.0	0.0	125.0	48.9
7 月 1 日 ～	平 年	15.8	21.8	31.4	18.9	87.9
	本 年	9	17	15	9	50
7 月31日	平年比(%)	57.0	78.0	47.8	47.6	56.9

※B L A S T A M の判定結果は、J P P - N E T (一般社団法人日本植物防疫協会)から引用

平年は2016年から2025年までの平均値

②紋枯病

7 月下旬の巡回調査では、東信地域及び北信地域の一部で発生がみられたが、県全体では平年と比べ少なかった。

③白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

7 月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④ばか苗病

7 月下旬の巡回調査では発生は確認されなかったものの、調査地点以外の一部ほ場において発生がみられた。

⑤ヒメトビウンカ

7 月下旬に実施した巡回調査(ネット20回振)では、成虫及び幼虫の捕獲頭数は県全体では平年と比べ多かった。

⑥ツマグロヨコバイ

7 月下旬に実施した巡回調査(ネット20回振)では、成虫及び幼虫の捕獲頭数は県全体では平年並～やや多かった。

⑦イネドロオイムシ

7 月上旬の巡回調査では、東信地域及び北信地域の一部で食害が多かったが、県全体では平年と比べ少なかった。

⑧セジロウンカ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）では、成虫及び幼虫の捕獲頭数は県全体では平年と比べ少なかった。

⑨トビイロウンカ

7月下旬の巡回調査及び予察灯の誘殺調査では、発生はみられなかった。

⑩イナゴ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での捕獲頭数は、県全体では平年と比べ少なかった。

⑪フタオビコヤガ（イネアオムシ）

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での捕獲頭数は、南信地域の一部で発生が多くみられたが、全般に平年と比べ少なかった。

⑫イチモンジセセリ（イネツトムシ）

千曲市における黄色粘着トラップを用いた誘殺調査では、誘殺開始時期は7月第2半旬で、平年並であった。

また、第1世代成虫の発生最盛期は7月第3半旬で、平年に比べて2半旬早かった。

誘殺頭数は、7月第2半旬から第4半旬までは平年と比べ多かったが、7月第5半旬から8月第1半旬までは平年並であった（第2表）。

第2表 イチモンジセセリ成虫の黄色粘着トラップ誘殺消長（頭） 千曲市							
区分	7月						8月
半旬	1	2	3	4	5	6	1
平 年	0.3	2.1	7.8	11.9	14.3	6.0	3.9
本 年	0	8	16	15	13	6	4

黄色粘着版1,200cm² (20cm×20cm×3枚) 当たりの誘殺数

平年は2016年から2025年までの平均値

⑬カメムシ類

予察灯調査（全6地点）でのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺頭数は、県全体では平年と比べやや多く、またアカスジカスミカメの誘殺頭数は県全体では平年と比べ多かった。

7月上旬に実施した本田すくい取り調査（ネット20回振）では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率が全域で52.5%（平年42.2%）とやや高く、1地点あたりの平均捕獲頭数は1.62頭（平年1.60頭）で、平年並であった。

県内における捕獲種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシの順に多かった（第3表）。

第3表 7月上旬の本田すくい取り調査による斑点米カメムシ類の捕獲状況

地域	調査 地点数	捕獲地点率 （%）		平均捕獲頭数 （頭）		種別捕獲頭数合計（頭）				
		平年	本年	平年	本年	計	アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ	ホソハリカメムシ	アカヒメハリカメムシ
東信	15	48.7	53.3	1.47	1.07	16	16	0	0	0
南信	15	32.2	13.3	0.69	0.20	3	1	0	2	0
中信	17	46.4	64.7	2.80	2.47	42	17	19	4	2
北信	14	42.3	78.6	1.28	2.71	38	33	5	0	0
県全体	61	42.2	52.5	1.60	1.62	99	67	24	6	2

（注1）調査方法：本田において、すくい取り（ネット20回振）で捕獲された斑点米カメムシ類（成虫及び幼虫）を調査

（注2）捕獲地点率（%）：調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合。

（注3）平均捕獲頭数：捕獲頭数計（成虫数＋幼虫数）÷調査地点数

（注4）平年：2016年～2025年の平均値

7月下旬に実施した本田すくい取り調査（20回振）では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率は県下全域で45.9%（平年24.0%）と高く、1地点当たりの平均捕獲頭数も3.2頭（平年0.6頭）と多かった。特に、東信地域及び北信地域は全般に多く、中信地域は一部で捕獲が多かった。

県内における捕獲種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシの順に多かった（第4表）。

そこで、全県で斑点米カメムシ類が多発する恐れがあることから、令和8年7月29日付けで「令和8年度病害虫発生予察注意報第2号（斑点米カメムシ類）」の発表を行い、注意喚起を図った。

第4表 7月下旬の本田すくい取り調査による斑点米カメムシ類の捕獲状況

地域	調査 地点数	捕獲地点率 （%）		平均捕獲頭数 （頭）		種別捕獲頭数合計（頭）					
		平年	本年	平年	本年	計	アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ	ホソハリカメムシ	アカヒメハリカメムシ	トゲシラホシカメムシ類
東信	15	15.3	46.7	0.26	7.07	106	48	51	1	2	3
南信	15	32.9	26.7	1.08	1.33	20	0	1	19	0	0
中信	17	30.0	70.6	0.91	3.29	56	24	24	5	1	2
北信	14	15.1	35.7	0.19	0.93	13	5	0	4	4	0
県全体	61	24.0	45.9	0.64	3.20	195	77	76	29	7	5

(注1) トゲシホカミシ類：トゲシホカミシ、オトゲシホカミシ、シホカミシ
(注2) その他の注意事項は第3表に同じ

果樹の生育概況

令和8年産の果樹生育概況は、果樹試験場ホームページの定例調査にある「令和8年の生態調査結果」および南信農業試験場ホームページの調査速報にある「令和8果樹生態調査」を参照ください。
果樹試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/chosa/teirei/index.html>)
南信農業試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/joho/sokuho/index.html>)

2 りんご

(1) 病害虫の発生状況

- ①褐斑病
巡回調査では、東信地域、北信地域で広く発生がみられたが、発生量は多くなかった。
- ②黒星病
巡回調査では、北信地域の一部でわずかに発生がみられた。
- ③斑点落葉病
巡回調査では、東信地域、北信地域の一部のほ場でわずかに発生がみられた。
- ④黒点病
巡回調査では、発生はみられなかった。
- ⑤キンモンホソガ
巡回調査では、県下全域で、寄生葉（マイン）がみられ、被害葉率は平年並からやや多かった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による第2世代成虫（7月上中旬）の誘殺頭数は、平年よりやや多かった（第1表）。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	84.2	201.3	317.0	305.0	264.7	179.0
前年	228	178	320	246	98	69
本年	286	282	483	55	19	31

平年は2016年から2025年までの平均値

⑥シンクイムシ類

巡回調査では、果実への被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップ調査では、越冬世代成虫（7月）の誘殺頭数は、平年と比べ多かった（第2表）。
須坂市（果樹試験場）のスモモヒメシンクイのフェロモントラップ調査では、第2世代成虫（7月中下旬）の誘殺頭数は、平年並みであった（第3表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	7.8	4.3	2.0	1.7	4.4	7.3
前年	8	16	15	3	2	12
本年	49	17	9	19	3	12

平年は2016年から2025年までの平均値

第3表 スモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	4.3	3.0	1.7	4.0	6.1	17.9
前年	2	5	0	1	3	6
本年	2	2	3	7	16	10

平年は2016年から2025年までの平均値

⑦ハダニ類

巡回調査では、リンゴハダニ、ナミハダニの発生が県下全域でみられたが、発生程度には場間で差があった。

⑧リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる調査では、誘殺がみられなかった（第4表）。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	0	0.2	0	0.1	0	0.1
前年	0	0	0	1	0	1
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

3 な し

（1）病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査で発生はみられなかった。

②黒星病

巡回調査で発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病は7月中旬以降、急増し平年並の発病率になった（第1表）。

第1表 果実の発病（％） 高森町（南信農業試験場）

区分	7月			8月
	5日	15日	25日	5日
平年	60.0	71.2	73.2	75.8
前年	6.9	14.5	25.9	24.3
本年	13.0	18.3	66.7	80.0

平年は2016年から2025年までの平均値

③黒斑病

巡回調査で発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）におけるアルタナリア属菌の捕捉胞子数は平年より多かった（第2表）。

第2表 アルタナリア属菌の捕捉胞子数（個） 高森町（南信農業試験場）

区分	7月			8月
	上旬	中旬	下旬	上旬
平年	37.6	25.5	17.3	23.3
前年	88	88	32	9
本年	64	64	29	100

平年は2016年から2025年までの平均値、2023年から旬毎の調査に変更

表中の数字は18mm×18mm当たりの胞子数（個）
調査樹の生育不良で果実、新梢葉の発病調査は5月25日調査で終了。

④カメムシ類

巡回調査で被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる調査では、クサギカメムシは誘殺がみられなかった。チャバネアオカメムシの誘殺数は平年より多かった（第3表）。

第3表 カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	月	7月						8月
	半旬	1	2	3	4	5	6	1
クサギカメムシ	平年	0.1	0.1	0.3	0.6	0.3	0.8	0
	前年	0	0	0	1	1	4	0
	本年	0	0	0	0	0	0	0
チャバネアオカメムシ	平年	12.9	15.7	8.6	17.1	20.0	13.8	23.8
	前年	40	31	9	31	45	35	43
	本年	4	1	3	1	2	1	2

平年は2016年から2025年までの平均値

⑤ナシヒメシンクイ

巡回調査で被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺数は平年より多かった（第5表）。

第4表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	0.7	1.0	3.5	4.1	3.6	4.3
前年	1.5	3.5	3.0	7.0	7.0	9.5
本年	3.5	3.0	8.5	8.0	13.5	7.5

平年は2016年から2025年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査で、めだった被害はみられなかった。掃落調査では、カンザワハダニ、ナミハダニの寄生を確認した程度で、寄生量は少なかった。

⑦リンゴコカクモンハマキ

巡回調査で被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる調査では、誘殺がみられなかった（第5表）。

第5表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0	0	0.2	0.2	0.5	0.1
前年	0	0	1	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

4 も も

（1）病害虫の発生状況

①せん孔細菌病

巡回調査では、葉および果実への発病はみられなかった。

②灰星病

巡回調査では、東信地域の一部で発病がみられた。

③黒星病

巡回調査では、発病はみられなかった。

④シンクイムシ類

巡回調査では、果実への被害はみられなかったが、北信地域の調査対象外ほ場ではみられたところがあった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、新梢や果実への被害はみられなかった。

⑥モモハモグリガ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	44.0	44.4	39.8	33.4	13.8	59.1
前年	1	4	0	0	0	0
本年	8	3	3	7	12	13

平年は2016年から2025年までの平均値

⑦ハダニ類

巡回調査では、南信地域を除いた地域で葉への発生がみられた。

5 ぶどう

（1）病害虫の発生状況

①さび病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②べと病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③黒とう病

巡回調査では、発生はみられなかった。

④クビアカスカシバ

小布施町のフェロモントラップによる誘殺頭数は、第1半旬は平年より多かったが、その後はほぼ平年並であった（第1表）。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

小布施町

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	15.7	12.6	9.9	8.8	4.4	4.2
前年	39	17	10	6	4	4
本年	24	14	13	9	2	3

平年は2016年から2025年までの平均値

⑦チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

6 か き

(1) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査で発生はみられなかった。

②円星落葉病

巡回調査で発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）におけるカキ円星落葉病の子のう胞子の捕捉数は平年より多かった（第1表）。

第1表 カキ円星落葉病の子のう胞子の捕捉数

高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
半月	1	2	3	4	5	6
平年	4.4	4.9	4.2	7.3	29.2	33.2
前年	61	23.0	40.7	15.8	4.1	2.9
本年	33.6	23.3	1.9	0.0	0.6	23.9

平年は2016年から2025年までの平均値、2023年から旬毎の調査に変更
表中の数字は18mm×18mm当たりの胞子数（個）

④カキクダアザミウマ

巡回調査で被害はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査で被害はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

巡回調査で寄生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺数は平年より多かった（第5表）。

第2表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップへの誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
半月	1	2	3	4	5	6
平年	9	2	8	5.5	5.3	3.7
前年	2	5	19	7	10	5
本年	1	6	37	62	72	14

平年は2016年から2025年までの平均値

7 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

巡回調査では、東信地域の露地栽培でオオタバコガの産卵が6月下旬から継続的に確認され、被害果実がみられたほか、アザミウマ類が多く、白ぶくれ果症がみられた。中信地域の露地栽培においても同様の被害がみられ、施設栽培では灰色かび病の発生がみられた。南信地域の露地栽培ではアブラムシ類、施設栽培ではオンシツコナジラミの寄生がみられた。北信地域の施設栽培ではうどんこ病、斑点病の発生とアザミウマ類、オンシツコナジラミの寄生がみられた。

②きゅうりの病害虫

巡回調査では、南信地域の施設栽培でアザミウマ類、北信地域の施設栽培でうどんこ病の発生とアザミウマ類の寄生、露地栽培で灰色かび病の発生とアザミウマ類、ハモグリバエ類の寄生がみられた。

③すいかの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

④いちごの病害虫

巡回調査では、アザミウマ類の寄生による花への加害がみられた。

⑤キャベツの病害虫

巡回調査では、東信及び北信地域でウワバ類等チョウ目害虫の加害、中信地域でアザミウマ類による寄生がみられた。

⑥ブロッコリーの病害虫

巡回調査では、東信地域でコナガ等チョウ目害虫の加害、アブラムシ類の寄生がみられた。

⑦はくさいの病害虫

巡回調査では、東信地域の一部のほ場で尻腐病の発生とチョウ目害虫による加害、キスジノミハムシの寄生がみられた。

⑧レタスの病害虫

巡回調査では、東信地域のほ場ですそ枯病の発生がみられたほか、一部で菌核病の発生がみられた。

⑨アスパラガスの病害虫

巡回調査では、全調査地点でアザミウマ類の寄生がみられた。

また、南信地域の雨よけ栽培の一部ほ場、北信地域の露地栽培で茎枯病の発生がみられたほか、東信地域での露地栽培でジュウシホシクビナガハムシの幼虫、北信地域の雨よけ栽培、南信地域の雨よけ栽培の一部ほ場でハダニ類の寄

生がみられた。

⑩ねぎの病害虫

巡回調査では、全調査ほ場（南信地域、中信地域）で黒斑病とさび病の発生、アザミウマ類、ネギハモグリバエの寄生がみられ、南信地域で被害が大きかった。

⑪さくの病害虫

巡回調査では、東信地域で黒斑病の発生とアザミウマ類による葉の加害がわずかにみられた。

⑫コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる総誘殺頭数は、塩尻市、小諸市、原村、長野市では平年と比べ少なかったが、朝日村では概ね平年並み、上田市では平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	9.2	7.3	8.5	11.1	13.2	8.7
		本年	0	0	0	0	3	1
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	25.9	38.0	37.9	25.8	24.3	19.0
		本年	16	13	7	6	9	18
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	5.3	4.2	4.7	4.4	6.2	6.0
		本年	2	8	12	6	20	17
原村判之木 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	43.1	59.6	52.0	54.7	50.3	63.5
		本年	54	14	14	15	16	14
朝日村古見 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	18.3	15.8	12.3	19.5	37.4	22.0
		本年	15	17	18	18	40	22
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	18.0	14.6	13.6	15.8	13.0	16.0
		本年	3	3	2	7	2	3

平年は2016年から2025年までの平均値 朝日村は2019年から2025年までの平均値

⑬オオタバコガ

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では第1、第6半旬を除き平年と比べ少なかった。

小諸市では、第3半旬を除き平年と比べ多く、7月の総誘殺頭数は平年の約

2倍であった。須坂市では、第1半旬を除き平年と比べ少なかった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	8.2	15.3	18.2	28.8	29.8	29.5
		本年	29	7	3	5	8	30
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	13.3	21.2	22.8	18.6	12.6	13.8
		本年	45	44	20	52	28	29
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	3.1	9.7	13.8	15.0	8.7	7.2
		本年	5	0	0	10	0	6

平年は2016年から2025年までの平均値

⑭ヨトウガ類

ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では概ね平年並み、須坂市ではやや少なかった（第3表）。

ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では第3半旬まで、須坂市では第4半旬まで、平年と比べて少なかったが、以降は多くなった。上田市では、平年よりもやや少ない誘殺頭数であった（第4表）。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では、第6半旬で急増し、長野市でやや増加した（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	2.5	2.6	12.3	15.3	21.7	23.5
		本年	2	4	7	28	25	22
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	0.4	1.9	1.8	1.5	0.7	0.3
		本年	1	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	20.6	31.6	26.5	21.3	27.5	40.8
		本年	14	12	21	56	76	94
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	10.4	16.1	18.3	15.1	12.4	22.0
		本年	4	1	0	10	18	69
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	5.6	6.0	5.5	4.2	5.7	5.2
		本年	0	0	2	4	3	3

平年は2016年から2025年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	3.7	4.3	5.7	5.7	6.6	7.9
		本年	3	7	4	4	4	31
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	0.5	0.1	0.5	0.5	0.5	0.4
		本年	0	0	1	2	1	3

平年は2016年から2025年までの平均値、長野市は2018年から2025年までの平均値

⑮ウワバ類（アブラナ科野菜）

巡回調査では、東信、北信地域のキャベツ、南信地域のブロッコリーで加害がみられた。

⑯ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地域、中信地域のねぎ、北信地域のきゅうりで加害がみられた。

⑰アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀では第4、第5半旬は平年と比べ少なかったが、その他の期間は、平年よりも多かった。

小諸では、第2、第3半旬を除き、平年と比べ少なかった。

上田では、第2半旬以降は概ねほぼ平年並みであった。

塩尻市洗馬では、第1半旬は平年よりも少なかったが、第2半旬以降は平年よりも多かった。長野市では、調査期間を通して平年と比べやや多かった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	16.4	14.0	15.8	10.9	13.7	10.1
		本年	40	26	18	2	5	15
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	42.4	21.4	26.4	19.0	12.3	19.3
		本年	20	28	27	10	4	7
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	3.8	3.1	2.7	2.1	1.9	2.0
		本年	9	1	1	3	1	0
富士見町立沢 （地区発生予察ほ）	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	3	3	2	3	2	5
塩尻市洗馬 （地区発生予察ほ）	レタス	平年	108.4	97.6	50.4	28.2	19.9	13.5
		本年	46	114	62	76	57	66
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	15.3	9.3	6.2	4.7	5.3	5.2
		本年	22	11	13	8	5	10

平年は塩尻市・小諸市は2017年から2025年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2025年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑱アザミウマ類（ネギ、ヒラズハナ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市では平年との増減差が大きい半旬もみられるが、総誘殺頭数は概ね平年並みであった。

塩尻市では、総誘殺頭数は平年の4.5倍とかなり多かった。長野市では、全般的に平年と比べ少なかった（第7表）。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	17.3	29.9	21.5	17.3	15.5	17.6
		本年	18	5	11	37	12	16
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	12	10	12	8	26	15
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	57.6	84.8	135.2	120.0	144.2	91.9
		本年	89	178	325	636	861	757
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	56.8	35.6	37.4	38.9	43.8	40.8
		本年	2	3	9	9	10	10

平年は塩尻市では2017年から2025年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2025年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し